

会議の名称	第4回タウンミーティング
開催日時	平成27年5月16日（土）午前9時～午前10時13分
開催場所	永和地区防災コミュニティセンター 講堂
出席者	市長、副市長、総務部長、企画部長、秘書課長 参加者 54名
テーマ	市の防災について
質疑応答	
市民A	<p>私は昨日、たまたまですが、蟹江町の希望の丘とか飛島村の避難タワーとか避難所の見学に、自主防災のリーダー会というのがあるのですが、リーダー会の皆さんと参加してきました。その中でも関心を持ったのが、逃げ場所の確保ということで、飛島村もそうですし、蟹江町もそうですが、そういう点では非常に力を入れている。飛島村の例でいきますと、居住人口すべての人を収容する設備を今作っているということでした。蟹江町の場合は、愛西市のすぐ隣の蟹江高校の横に希望の丘を作っているということです。その資料をいただきましたので、またお届けしますが、逃げ場所の確保という点で共通して言っていたのは、海岸堤防より河川堤防がいかに怖いかと。その河川堤防を補強するということと、河川堤防の決壊に備えるということがそれぞれ共通して言われていたことで、愛西市の場合を考えてみると日光川と木曽川の河川堤防、泥の堤防ですが、これが地震で揺すられて高さが崩れると、水が溢れるということが1番のことかなと。</p> <p>2番目には、道路の液状化という問題があって、物資が届かないとか避難ができないとかいう問題も考えなきゃいかんかなと思います。それで具体的には、隣組で助け合っということも市長が今言われました。自主防災会の活動を活発にして訓練をしていくということも言われました。それはそれでそのとおりだと思いますが、その場合に行政として、本当に助け合っ逃げる逃げ場所をどうするか、足の悪い人も含めて、リアカーに乗せてどこまで逃げたらいいのかということも含めて、お互いに意見交換をしながら、意識を高めながらやっていく必要があるのではないかと思います。</p> <p>それで、飛島村の具体的な対策の中では、ボート、ゴムボート1隻50万と言っていました。ボートを各避難所に備えるということで努力しているようでした。それから、発電機、公民館や避難所に携帯用の発電機を備えることでも努力しているようでした。そんなようなことも含めて避難所を強化していく、避難をする時の対策</p>

	<p>を具体的に考えていく、堤防の崩壊の対策をとっていくということがうんと必要じゃないかなと思っています。もし、ご意見がありましたら、よろしく願います。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。河川の堤防強化については、先ほども説明させていただきましたが、愛西市は、河川の多い地域でございますので、それぞれ管理をしているところに対して、河川の堤防の強化をしていただきたいということもお話をさせていただいております。各自治体、飛島さんにしても、蟹江さんにしても、自分の管理下のところは、各自治体でやられると思いますが、それ以外の国、県管理の河川、特に木曾川は国管理河川でございますし、日光川は県管理河川でございますので、今、順次、河川の堤防耐震をやっていただいておりますが、私どもといたしましては、早急に、そして想定外でも崩れないような河川堤防にさせていただきたいとお話をさせていただいて、県・国と協力しながら、補強については、想定外だということがないようお願いをさせていただいております。愛西市だけの河川の耐震をさせていただいても、上流で決壊をすれば、当然愛西市にも流入するというところでございますので、そういうことは各自治体と連携をしながら取り組んでいかなければと思っております。</p> <p>逃げ場所の確保、各自治体の様々な防災に対する取り組みについては、飛島さんであれば、伊勢湾に近いのでボートの確保等も進められているということであると思っております。私ども愛西市としましても、何もしていないわけではないということは、当然ご理解いただいていることと思っておりますが、この防災コミュニティセンターは、東日本大震災の前に建てられていると思っておりますが、これが震災後に建てられる計画であれば、そういったことも予知をして建てられたのであろうと思っております。しかしながら、現在あるものも常日頃の行政サービス等も踏まえ、皆様方の日常生活も踏まえたことも考えながらやっていくということが、私ども行政に求められているものだと思っております。</p> <p>災害につきましても、どういったものが来るかということは、予想がなかなかしにくいわけでございますが、市民の方の生命、財産を守ることは、私ども行政に課せられた最大の使命だと思っておりますので、限られたものの中で、いかに皆様方と情報共有しながら、また、課題解決のために意見交換をしながらやっていくことが必要であると考えております。そのためにも、現在は、自主防災会の活</p>

	<p>動を活発的にやっていただきまして、その中から出てきたもの、また、備蓄の関係につきましても、ボート等が必要だろうということになれば、この年度は他の物の整備の量を減らし、ボートにするとか、そういったことも視野に入れながらやっていく必要があると思っておりますので、忌憚のないご意見等は担当にお話をさせていただけば、たいへんありがたいと思っております。</p>
市民B	<p>市長さんのビジョンと展望がよく理解できました。ありがとうございました。その中で、約20分にわたって防災についてきめ細かくお話を承り、よく理解できました。それで、まず、1つ目は、自主防災、現在ですね、愛西市は179あると。大井から自主防災ハザードマップというものを各家庭に配布されまして、これはすごいなど。ああいうものを見ますと、愛西市で179という自主防災の数ですね、もっと、町内会でもどんどん出てくるのではないかなど私は予測をしております。また、お願いもあります。なぜ、出てくるかといいますと、私の地区は、かなり高齢者の方がいまして、私も助けられる一人かなと思っておりますが、昼間だったらまあ大丈夫かなと思っておりますが、ところが車いすの方とか、介護の車が何台か来ているんですよ。私のところの通りだけでも。車いすの方もみえます。歩行は困難だなと思う方もみえます。もちろん、市長さんは支援者のリストアップは当然しているとお聞きしました。ですが、役所から考えることと末端の私たちが考えることには、多少違いがあると思うんですね。自主防災会、179以上出てくると、今以上に作らなくてはいけないなと思っております。作った以上、訓練もしなくてはいけないと。自分たちの町の中でシュミレーションを何回かやって、これでいいかという場合に、その計画を役所へ、市長さんに届ける窓口で「そんなものはだめだ」とはねられるというのではなくて、地域の活動に助言と指導をしていただきたい。要するに地域の活動に支援をするという、そういう防災についての窓口を設けていますよとおっしゃっていただけますと非常にありがたいなと思っております。これから、やっぱりそういうことを考えていかなきゃいけないなと思っております。私がお伝えしたいことはわかっていただけたでしょうか。よろしく申し上げます。</p>
市長	<p>ありがとうございました。現在、自主防災会は179でございますが、現在の自主防災組織では大きすぎるのではないかなというご相談等であれば承りますし、自主防災会の活動についても、助言できることがあればいくらかでもさせていただきたいと思っております。担当に</p>

	<p>つきましては、こちらの画面にもありますが、防災については、安全対策課が対応しております、電話番号が55-7130になります。こちらへかけていただきますと直接安全対策課へつながりますので、お問い合わせください。お願いでございますが、お電話いただく際には、町名とお名前を言っていただきたいと思います。お気軽にお電話ください。今後ともご理解、ご協力、活発な活動をお願いしたいと思っております。</p>
市民C	<p>先ほど市長から説明のあった防災行政無線についてお聞きしたいです。4月13日から5時のチャイムが実施されておりますけれども、私どもの地区はまだ一度も聞こえてきていません。私どもの地域で聞こえないということは、他の地域でも聞こえないところがあるのではないかなと思っております。いろいろ調べてみますと最近はサッシの性能が非常によくなってきています。防犯サッシ、二重扉、そのうえ、その中に住んでいるのは、じいちゃん、ばあちゃん。冬は暖房、夏は冷房。エアコンを1年中かけつつある状況です。細長い町もありますし、まとまった町もあります。私どものように一度も聞こえない、聞こえる耳はもっていても、聞こえてこないというのが現状なのです。各町でいろいろ相談して、町からの意向で増設してもらえるのか、もらえないのかをお聞きしたいです。</p> <p>先ほどの話と矛盾してしまいますが、今まで佐織地区は個別受信機でいろいろ重宝していたと聞いております。ただ、個別受信機はアナログだから使えなくなったということですが、これから先、5年、10年先を考えると高齢化すると、じいちゃん、ばあちゃんも少なからず耳が遠くなると、個別受信機の方がベターではないかと私は考えております。市長の考えをお聞きしたいです。</p>
市長	<p>防災無線の話ですが、状況を確認させていただかないとどこの場所で、どれくらいの音量で出ているのかがわかりませんので、これにつきましては、一度担当の者がお伺いさせていただいて、夕方5時のチャイムがどのような状況なのかを確認させていただきたいと思っておりますので、もしよろしければ、アンケートにその旨ご記入ください。</p> <p>個別受信機につきましては、この5年先、10年先、どのような状況になっているかにもよりますが、現状については、佐織にあった個別受信機は使えないというわけでございます。今後やれるかやれないかというのは別として、5年、10年先というお話もありましたが、今後の状況によった対応をしなければならないと思ってい</p>

	<p>ます。今現在、個別受信機をやるということはできませんし、将来やるかやらないかはお答えはできませんが、皆さんの生活形態やライフスタイルが変わってくることもありますので、それに合わせてやり方、手法が変わってくることは当然ありうることだと思っておりますので、ご理解いただきたいと思っております。以上です。</p>
市民D	<p>いろいろなお話を伺って納得しつつ、納得できないところもあります。細かいことですが、先ほどの方がおっしゃいました、逃げ場、逃げ場所ですね。それについてお伺いしたいと思います。永和台も地盤沈下で液状化の恐れがあるところなんですけど、逃げ場所として福祉センターが指定されているのですが、福祉センター、中学校、小学校、体育館、永和出張所とありますけれども、それぞれの世帯数がそこへ収容できるのかどうか。それから、中学校はまっすぐはたぶん行けないと思うんですけど、中学校は、川がすぐ傍にあるから私たちは高齢者が多いものですから、歩いてはとても行けないと思うんですね。川があるから怖いなと思って、始めから中学校へ行くつもりはないんですけど、一番近いとしたら福祉センターなんですけど、何名くらい収容できるんですか。もちろん、大井の方もあつたし。それと自分の家で、とりあえず、自分の身は自分で守ってくれということなので、とりあえず、家にいるんですけど、「7日分の備蓄はしてください」ということをおっしゃいますが、備蓄をしていても家が潰れたりなんかしたら、とてできないんですよ。そういう時、例えば2階だけ残って、2階にいた場合、自宅にいた場合、そういう食料品とかいろんな物資が、皆さんが集まるところだったら、そういうのがあると思うんですけど、他の震災の時にも自宅に残っている人にはなかなか物資が行き届かないということもありますので、そういう時には自宅にいるよという目印をして、市の方がその目印を確認していただくとか。それともう1つ、ペットがいるんですけど、結構ペットを飼っていらっしゃる方がいると思うんですけど、避難所にはペットを連れていけないと思うんですけど、私はペットが家族の一員になっておりますので、いつもまあいかん時は2階におろうねと犬に話しているんですけど、そういうことも含めて自宅にいた場合は、どういう方法で対処していただけるかお答えしていただきたいと思っております。</p>
市長	<p>収容人数については、部長が調べておりますので、わかればお答えさせていただきます。まず、災害はいつどこで発生するかわかりませんので、まず、災害が発生した時のその周辺の安全なところに</p>

	<p>逃げていただくというのが基本中の基本でございます。とかく、自宅にいる時に災害が発生すると皆さん想定されますが、出かけている場合にも発生する可能性は十分ありますので、とにかくどこでもいいので、市としては避難所を設定しておりますが、それ以外でも安全であると自分で確認できれば避難をしていただくということが大切であると思っています。</p> <p>自宅で避難備蓄品を7日程度用意してくださいというのは国全体の方針で、できるだけ7日分揃えていただいて、災害が発生し、自宅に戻った時にそういうものを皆さんで共有しながら命をつないでいただきたいという考えです。行政といたしましては、災害が起きましたら、地域の被害状況や災害の復旧応援要請をした後は、当然地域の状況確認に、市職員全員として対応させていただくような形になると思います。その中で必要な物資を届けたり、市職員一丸となって取り組んでいかなければならないということがございますので、その災害も地震なのか台風なのか状況がどういう状況になるのかわかりませんが、臨機応変に皆様方とともに災害を乗り越えるために様々な手法で取り組んでいかなければならないと思っております。</p> <p>ペットのお話ですが、少し前に新聞にもそのような記事が出ておりました。皆様方、家族の一員としてペットを飼われている方も多いわけですが、申し訳ありません、現状、愛西市としては、ペットを連れてこられた方をどのようにケアするのか考えておりませんが、今後については、皆様方のライフスタイルもございますので、検討の課題の一つではあるなと思っております。今現在はそういうことでありますので、ご理解をいただきたいと思っております。以上でございます。</p>
総務部長	<p>貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。避難と申しますと定義がございまして、危険な場所の人が、危険が襲う前に安全な方法で安全な場所に危険が去るまで移動することを避難ということでございます。災害によりまして、また、地域によりまして、何に対して誰がいつどのようにどこに逃げるか、全く異なるわけがございまして、例えば、台風の場合、地震の場合、私どもが考えますのは、東日本大震災のような津波によるですね、波の力で建物が壊れながら流されていくというのは、愛西市では起こりにくいと考えておりまして、じわりじわり浸水してくるのではないかと考えております。また、被害の予測結果では浸水予測時間が示されて</p>

	<p>おりますので、情報収集にしっかり努めていただきまして、避難時間に余裕がある場合は、八開とか佐織とかに避難をしていただくことも考えております。また、自宅が地震に耐えられるのであれば、しっかり情報収集をしていただいたうえで、2階以上の水の来ない垂直避難も必要ではないかと思えます。先ほど、それぞれの避難場所の収容人員はどれだけかというご質問でございますが、当然全世界帯がそこに入れるわけではございません。あくまで、一人1㎡といたしまして、計算をいたしますと永和小学校の体育館では975名、永和中学校は一時避難といたしまして2,095人収容できると計算上はなっております。また、先ほど、混同されやすい種類の避難ということで、緊急避難、一時避難、収容避難というのがございまして、緊急避難は、火災、津波の襲来、危険物の漏えいなど緊急事態から身体を守るための避難でございまして、一時避難というのは、個人や世帯単位で無秩序に避難するのではなく、近くの近隣公園、小学校などへ一時的に避難をするというものです。収容避難は家屋の倒壊、焼失などによりまして住む場所がなくなった方の二次的な避難ということでこちらは長期の避難となると思えますけれども、そういった場合は、学校だけではなくて、他の施設も開放されるということでございます。以上でございます。</p>
市民D	福祉センターは何名くらいですか。
市長	後ほどお答えさせていただきます。アンケートにご記入ください。
市民E	子どもの頃、平屋が多かったものですから、親から水害の時は堤防に逃げろということで指導されていたのですが、今回、排水機場がたくさんあるということですが、人家に近い排水機場は、避難所を併設していただくということはないのでしょうか。
市長	排水機場を避難所として使えないかというご意見かと思えますが、その件につきましては、管理している団体と意見交換をさせていただきたいと思えます。災害が起きれば、避難所は決まっているようで決まっていなような状況になりますので、とにかく自分で安全だと思われるところへ逃げさせていただくのが第1だと思います。排水機場が安全だと認識をされれば、そこへ逃げさせていただければと思います。今、ご意見をいただきましたので、管理している団体さんには少し意見交換をさせていただきたいと思えますので、ご理解をさせていただきたいと思えます。